

## 再評価結果（平成27年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課

担当課長名：茅野 牧夫

<b>事業名</b>	一般国道40号 <small>おといねっぶ</small> 音威子府バイパス	<b>事業区分</b>	一般国道	<b>事業主体</b>	国土交通省 北海道開発局
<b>起終点</b>	自： <small>ほっかいどうなかがわ おといねっぶ おといねっぶ</small> 北海道中川郡音威子府村字音威子府 至： <small>ほっかいどうなかがわ なかがわ ほまれ</small> 北海道中川郡中川町字 誉	<b>延長</b>	19.0km		
<b>事業概要</b>	一般国道40号は、旭川市を起点とし、士別市、名寄市を經由して稚内市に至る延長約250kmの幹線道路である。 このうち音威子府バイパスは、現道の交通事故低減及び雪崩による特殊通行規制区間の解消による道路交通の定時性や安全性の向上を目的とした、中川郡音威子府村字音威子府から中川郡中川町字誉に至る延長19.0kmのバイパス事業である。				
H5年度事業化	H一年度都市計画決定 (H一年度変更)	H19年度用地着手	H19年度工事着手		
<b>全体事業費</b>	約985億円	<b>事業進捗率</b>	57%	<b>供用済延長</b>	0.0km
<b>地域の防災面の課題</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成11年度には、雪崩により21日間にわたり通行止めが発生。</li> <li>・当該区間の防災面の課題は、中川町（人口：1,907人）等、道北地域において日常生活や経済活動を営む上で重大な障害及び不安要素となっており、中川町などからも改善の要望が出されているなど、地域の喫緊の課題となっている。</li> <li>・現道は、急峻な地形となっており、防災上の対策必要箇所が7箇所（落石・崩壊：6箇所、地吹雪：1箇所）、異常気象時の特殊通行規制区間が1区間（雪崩）存在し、雪崩、吹雪・地吹雪、路面冠水、土砂災害による通行止めが頻発していることから、早急な対策が必要。 (北海道開発局道路防災技術専門委員会（H25.10）)</li> <li>・現道には、地すべり指定地「物満内」（基盤岩は蛇紋岩）が存在し、天塩川による地すべり末端部の浸食により小規模地すべりの発生を誘発しているため、早急な対策が必要。 (北海道開発局道路防災技術専門委員会（H25.10）)</li> <li>・現道は、急カーブ2箇所と事故危険区間1箇所が存在し、過去10年間（H15～24）で30件の死傷事故が発生しており、交通事故への早急な対策が必要。 (北海道開発局道路防災技術専門委員会（H25.10）)</li> </ul>					
<b>課題を踏まえた対策・事業内容</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・想定される地すべり（必要抑止力4,000KN/m）や岩盤崩壊（落石エネルギー5,000KJ）の外力が大きく、また災害要因も多岐にわたるため現道での対策が困難であることから、災害要因の解消、事故要因の除去及び周辺環境への影響、事業期間及び経済性を防災上の視点から技術的に比較考慮した結果、災害要因箇所及び線形隘路区間を回避する別線ルートが妥当。 (北海道開発局道路防災技術専門委員会（H25.10）)</li> <li>・別線を整備することにより課題箇所を回避。</li> <li>・トンネル工において、蛇紋岩等脆弱な地質の判明により、掘削パターンを見直すことは妥当。 (北海道開発局道路防災技術専門委員会（H26.8）)</li> <li>・法面工において、当初の地質調査では確認されていない地すべり層（粘土混じり破碎質泥岩）の対策工として環境への影響、事業期間、経済性を比較考慮した結果、法枠とグラウンドアンカーに見直すことは妥当。 (北海道開発局道路防災技術専門委員会（H26.8）)</li> </ul>					
<b>事業の効果等</b>				<b>費用</b>	
○走行時間短縮等（378億円（残事業＝378億円）） ○災害による被害の回避等（160億円（残事業＝160億円）） <ul style="list-style-type: none"> <li>・落石崩壊等による通行止め時の迂回の解消</li> <li>・救急搬送の効率化及び遅延の回避</li> <li>・余裕時間の短縮による効果</li> </ul>				(残事業)/(事業全体) 416/1,019億円 〔 事業費：366/969億円 〕 〔 維持管理費：50/50億円 〕	

○地域住民の不安感の解消（４８４億円（残事業＝４８４億円））

・走行時の安心の確保・不安の解消

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等：

名寄市など上川管内４市１７町２村の首長などで構成される「北海道上川地方総合開発期成会」等より事業促進の要望を受けている。

知事の意見：

現道の交通事故低減及び雪崩による特殊通行規制区間の解消による道路交通の定時性や安全性の向上等が図られ、道民生活の向上や経済・社会活動の活性化に寄与することから、当該事業の継続について異議はない。

なお、事業の実施にあたっては、環境への影響を最小限にとどめること。また、綿密な事業の管理に努め、より一層徹底したコスト縮減を図るとともに、これまで以上に効率的・効果的に執行し、早期供用を図ること。

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・名寄美深道路が名寄ＩＣ～美深北ＩＣまで開通
- ・豊富・幌富バイパスが豊富サロベツＩＣ～幌延ＩＣまで開通
- ・市町村合併により、「士別市」、「名寄市」、「枝幸町」が誕生
- ・シーニックバイウェイ北海道「天塩川流域ミュージアムパークウェイ（候補ルート）」登録

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成５年度に事業化、平成１９年度に工事着手して、用地進捗率１００％、事業進捗率５７％となっている。（平成２６年３月末時点）

残事業の内容（音中トンネル４，６８６ｍ、音威子府トンネル２，６９９ｍ等）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き、早期開通に向けて事業を進める。

平成３０年度：（仮称）音威子府ＩＣ～（仮称）中川ＩＣ間 延長１９．０ｋｍ（２／２）開通予定

施設の構造や工法の変更等

トンネルの盤ぶくれ対策及びトンネル補助工法・掘削パターンの変更により事業費が増加している。換気設備台数の見直しにより、コスト縮減対策に取り組んでいる。

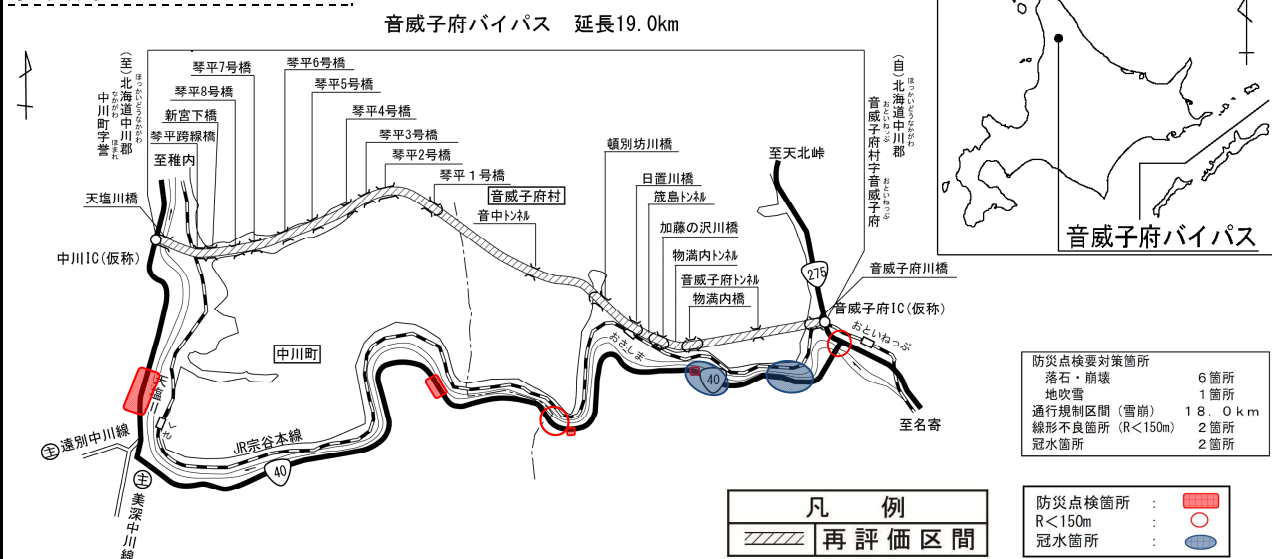
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性・重要性は変化なく、防災面の効果が見込まれるため。

事業概要図



※ 1 事業の効果に記載している金額は、防災面の効果を完成後50年間の便益額として現在価値化して算出した値であり、試算値を含む。

※ 2 費用に記載している金額は、現在価値化して算出した値。